

やさしい病害虫講座 7 ネットで害虫防御

木村 裕

9～10月頃、家庭菜園では寒冷紗を使ったネット栽培が良く目につきます。細い竹やプラスチック棒でドーム状に骨組みを作ったトンネル栽培です。何を栽培しているのかと覗くと、ハクサイ、ダイコン、カブラ、レタス、ネギなどが所狭ましと植えられています。なぜと質問すると、無農薬栽培をしているので虫がつかないよう被せているとのことでした。なるほどと感心したいところですが、内部のハクサイの葉には虫食い孔がいっぱいあいています。本当に効果があったのでしょうか？隣のおじさんがするから自分もと猿真似をしているような気がします。



網状になった布や寒冷紗で覆う栽培は、害虫がはいってこないのが無農薬栽培としては理想的です。ネットの中に虫がはいらなければ万々歳ですが、虫の方も生き残りがかかっていますのでなんとか潜り込もうと、おじさんの隙をうかがって入り込み、念願の卵を産みつけます。

ネットをいつ頃被覆するかがポイントです。播種から収穫まで網をかけたままで栽培するのが理想ですが、実際の場面ではありえないことですね。苗の間引き、草取り、水遣りなどの作業がありますから。

ネットは種を播いたときに張るのが基本で、芽が出てからでは遅すぎます。モンシロチョウは目ざとく青い葉を見つけてやってきます。しかもおじさんがお家で休んでいるときに。

苗を植えるときは、植えたら直ちにネットを張ります。ぐずぐずしていると卵をこっそり産

付けられます。もちろん、植える苗もネット下で育苗したものを使います。

すでに定植して日がたち、元気な苗では、張る前に1回だけ殺虫剤を散布し、虫を持ち込まないようにします。

ネット栽培の狙いは、葉っぱをかじって孔をあけるアオムシ、ヨトウムシ、葉に口ばしを突き刺して汁を吸うアブラムシの侵入を防ぐことです。しかしちょっとの油断から虫が入りこむと、ネットの中では餌はたっぷり、虫たちを悩ませる天敵もいないので我が世の春となります。その結果、ネットをしない場合より虫くい被害が増えることがあります。

苗の間引き、水遣り、除草などの作業は、ネットを最小限度開いて作業し、時間もできるだけ短くして虫が飛び込まないようにすることです。ネットを開いたまま、隣のおじさんとおしゃべりをしている人もちょいちょい見かけますが、虫を招待しているようなものです。たぶん、アオムシ・ヨトウムシ連盟から表彰状が届くことでしょう。

張ったネットは収穫直前まで取り外さないことです。通風のためか、裾の部分の少しあけているのをちょくちょく見かけますが、何のために覆ったのかを思い出しましょう。虫が気付かないと思ったら大間違いです。頭隠して尻隠さずでは。

